

A E D・救急対応講習 ボランティアグループの活動

私達グループはI C U看護師と循環器内科伊藤敦彦医師が中心になり、地域住民へのA E D・救急時対応の普及と地域貢献を目的に活動しております。

当院は職域病院としての使命と地域病院としての使命がありますが、地域病院として少しでも貢献したいと考えて活動しています。

ちなみに世田谷区の総人口（H23.1）が83.6万人で、関東中央病院が所在する半径1 km 圏内には、用賀・上用賀地区の世帯数が14,312世帯 29,087人が居住し、瀬田・玉川・玉川台を含めると28,979世帯 58,667人、更に桜ヶ丘を含めると37,587世帯 76,384人が居住しています。

本誌2月号では、昨年の11月にY C C（用賀コミュニティサークル）フェスティバルに参加した事を報告しました。指導したスタッフは、講習に参加してくれた商店街の人達や父兄・子供達の声を聞いて、関東中央病院が地域で期待されている事を肌身で感じて、医療者としての喜びと職業倫理観を改めて実感しました。今後も「A E D使用・救急対応を皆に伝えたい」と熱く意見を交わしました。

今回は2回目として狛江第6小学校の餅つき大会（1月29日）にA E D・救急対応講習を行ってきました。（狛江第6小学校のHP、関東中央病院のHPからもリンクしているので写真を見ることができます）伊藤医師の他、脳神経外科の菊池医師が参加し、看護師6名、そして検査技師長をはじめとするコメディカルスタッフ、日本光電スタッフ総勢14名で活動しました。

小学校での餅つき大会と言う事もあり、特に餅を喉に詰まらせた時の窒息時対応は、看護師の迫真の演技に、校長先生、教員を始め、父兄の方々も関心をもって積極的に参加して頂き、実りのある講習となりました。日頃から多様な病気・患者様に接している私達は、医療の原点である「人命救助＝人を助ける」を再認識することができ、指導する側としても大変勉強になりました。

今後も引き続き、A E D・救急対応講習ボランティアグループとして活動をして行きますので、本頁を読まれた近隣地域の方々に講習のご希望がありましたらお申し出ください。喜んで講習させていただきます。

（I C U看護師長 杉山 智英）

